

看護大からこんにちは

「言葉のすれ違い」

多くの方が、家族や友人、職場の方との会話の中で「あれ？私の言っていることが伝わっていないな…」とか、「違った意味で捉えられてしまったな」といった、言葉のすれ違いを経験したことがあるかと思えます。私は、あるお店の料理について「出てくる量が、とても多いよね」と、得した気持ちで話したのに、友人から「本当に多いよね。もっと考えればいいのに」と辛口の返事が返ってきた経験があります。

関係性を崩すきっかけにもなりかねません。こわいですね。そもそも、コミュニケーションの語源はラテン語の *communis* (共有する、分かちあう) からきており、相互通行の意思疎通を意味するとされています。意思の疎通のためには、一方通行ではなく、双方向でのやりとりが原則になります。このやりとりがうまくいかない時に、すれ違いが起こります。その原因として挙げられるのが、「伝える内容」です。伝える内容が多い、あるいは事実だけでなく憶測が入ることによって正確に伝わらず、すれ違いが起こります。

また、そのすれ違いがきっかけで、まっただのかしら？と心配したことがあります。ただ、美味しいことを伝えたかったようですが…

そしてもう一つ忘れてはいけないのが、人それぞれが持っている「価値観」です。価値観は、物の捉え方と言い換えられますが、冒頭で紹介した私のすれ違い体験は、まさにこの価値観の違いが原因で起きたといえます。「量が多い」ということに対し、私は「満足↓得した気持ち」を感じましたが、友人は「残す↓もったいない」を連想したのです。

大切な相手、あるいは大切な内容をやりとりする時には、伝える内容や表現の仕方とともに、相手の「価値観」にも目を向けることで、すれ違いは防げるのかもしれませんが。

新潟県立看護大学

基礎看護学領域

基礎看護学

准教授 岡村典子